

ペア組み点呼、浮く練習

B&G財団 水泳指導で研修会



教員たちにライフジャケットの着方を説明する財団職員(中央奥)

B&G財団(東京都港区)が2日、小・中学校教員向けに、水泳指導時の注意事項などに

関する研修会を開いた。東京都台東区教委の依頼で実施した。参加したのは新任の

小学校教員と、保健体育科の中学校教員の約40人。プールの学習指導時における指導法や注意点を豊富な経験、知識を持つ財団職員が伝えた。

初めに、東京都が実施した「安全な水泳指導のための中央講習会」に参加した小学校の教員から伝達講習があり、蹴り出し、けのびの指導の際の注意点などを話した。

続いて同財団職員、持田雅誠さんによる座学講習では「自分の命は自分で守る」ことを子どもたちに伝えたいとした。教員が、いかなる時でも全ての子どもたちに目を光らせていることは難しい。2人組になり、人数確認などを行う「バディ」は人数の確認だけではなく、相手の体調、様子を見ることも大事。子どもたちが自分で判断して行動する力を育みたい、と語った。

実際にプールに入っでの講習では、教員たちはバディを組んで点呼を取り、空きペットボトルで浮く練習をしたり、レスキューグッズの実践を行った。